



Title	NMDA型グルタミン酸受容体の局在制御におけるX11とX11Lの役割 [全文の要約]
Author(s)	本館, 利佳
Issue Date	2018-03-22
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/69966
Type	theses (doctoral - abstract of entire text)
Note	この博士論文全文の閲覧方法については、以下のサイトをご参照ください。【担当：薬学部図書室】
Note(URL)	https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/
File Information	Rika_Motodate_summary.pdf



[Instructions for use](#)

学位論文の要約

博士の専攻分野の名称 博士 (薬科学) 氏名 本館利佳

学位論文題名

NMDA 型グルタミン酸受容体の局在制御における X11 と X11L の役割

グルタミン酸受容体は興奮性神経細胞において記憶や学習を制御する重要な受容体であり、NMDA 型グルタミン酸受容体 (NMDA 受容体) と AMPA 型グルタミン酸受容体 (AMPA 受容体) がよく知られている。神経細胞に主に発現する足場タンパク質ファミリーである X11 および X11L は、*in vitro* においてグルタミン酸受容体の局在を制御することが示唆されてきた。しかしながら、*in vivo* で実際に X11 および X11L がグルタミン酸受容体の局在制御を担っているのかは不明であった。本研究では、X11 および X11L の遺伝子欠損マウスをもちいてグルタミン酸受容体の局在変化を解析することで、X11 および X11L がグルタミン酸受容体の局在を生体内において実際に制御していることを明らかとし、その分子機構の解析をおこなった。